

ビジネス教育における「礼節」について

— 不易と流行¹⁾ —

久保良一

” Respect ” on Business Education ” Effort and Fashion ”

Ryoichi KUBO

〔1〕はじめに

日本文化の「礼」に対する考え方には、集団主義的なものと個人主義的なものが考えられる。具体的には、「一般家庭での所作」や「おもてなしの心」、「商慣習における礼」、「人間の上下関係」、「企業における礼法」等、数えれば切りがない。また、日本の鎌倉時代から江戸時代の武士の礼法である小笠原流礼法は弓術や弓馬術として結びついたもので、日本伝統の全てを意味する観点からいえば礼法はその一部にしかすぎない²⁾。これらを色々な機会をとらえて教育や接遇・マナー、しつけ等の観点から育成している。礼法の「不易と流行」とは何なのか検証してみることも必要になってくる。さらに、多様化した今日の社会にあって、何が「礼節」として必要なのか、必要でないのかに焦点を当てることも大切な事である。

2020年オリンピック誘致合戦で、日本代表がいみじくも「おもてなしの心」で歓迎しますとスピーチで述べた。その言葉は日本人として、やさしくしかも心の中に何の抵抗もなく入っていった。おそらく礼節は、この世に生を受けて両親や家族単位、学校教育単位、地域単位で教授され、それはできて当たり前だという論理があるからだろう。日本の千数百年の歴史からすれば、個人としては短いかも知れないが「生」を受けて以来、いろいろな場面に細かい「所作」が入ってくるのが日本伝統・文化でもある。

・自由記述

① 宮崎県の県立学校にアメリカ合衆国の高校生が留学していた。留学生の両親が母国か

1) 不易とは、小笠原流礼法を指す。流行とはビジネス社会での礼法を指す。

2) 小笠原清忠小笠原流とはP10。小笠原流礼法入門 小笠原流三十一世宗家 小笠原清忠ハースト婦人画報社 (2011. 7.15)

ら学校を訪問されたときである。新聞紙に包んである品々を、「お土産です」と万年筆と雑貨類を数点持ってこられ、どうぞと渡された事がある。そこに差し出された品々は、現物そのままである。包装はしていない。新聞紙が包装紙かも知れない。また、マレーシアの商業学校（生徒数 3,000 人以上）を訪問し、日本の生徒たちと交流会を開催した時に渡されたのが「銀のカップ」であった。この時も包装していない。日本からすれば、他人に渡す品は、当たり前として包装紙に包んで渡すのが常識とされている。世界は違う、異文化だと感じる事ができた。

② 学校法人宮崎学園では建学の精神「礼節・勤労」として現代社会に生き抜く若者に人としての在り方生き方を通して伝授している。一方、企業等では「社是や社訓」の中でいろいろな表現はあるけれども、礼節を大事にしている企業も少なくない。さらにビジネス社会での企業は、企業＝礼節は常道だと、新人教育での研修会などに、接遇・マナー講師を招いて実施している。これらは主にビジネスで用いられる「所作」や言葉使いを中心に実施されている。

③ 企業がこの礼節を大事にしている例を 2 点紹介する。

例 1) 面接試験に望んだ生徒が泣きながら試験当日帰ってきた。なぜ泣いているのかと問いただすと、面接会場に最後に入場した時に、受験生の靴が乱れていたのが全員並べてから会場に入りしばらくして待っていると、「あなたは面接が終わりました」と告げられて、本人は面接を行っていないのに・・・と思いながら学校へ帰り不合格ではないかと思った瞬間涙が溢れてきたそうだ。学校の担当者は、腑に落ちないので企業に話を聞いてみたら、受験生である貴校の生徒が靴を並べているのを見て、これはしっかりとマナーを教えている学校で心配はないと言うことであった。この面接会場で生徒が行った行為が面接官の目にとまり合格を得たのである。ここにも「礼節」に対する意識の表れがあるのではなかろうか。

例 2) A 社を訪問したときの所作である。一連の流れで、①受付→②用件→③応接室→④面談が一般的である。このとき③で所作が試されることになった。お茶を出すときのシーンである。湯飲み茶碗の代わりに紙コップ、そこでお茶パックでお湯を入れる、そしてそれを手で持ってきて「いらっしやいませ」と言って差し出す。その後、所長が来られて出された紙コップを見てすぐ謝られた。わが社の若い者は常識（礼節作法）を知らんと立腹された。その後、話されたのがなぜそんな方法で行うのかという説明をされた。理由は「手が汚れない、水を触らないで済む」、「ネイルをしている」からということである。多様化社会を迎えている日本ではあるが、果たして対応という観点からいかなるものかと感じた。と同時に社内教育の礼節の大切さと管理職のあり方にも疑問を感じた日であった。

〔2〕「礼節」を考察

- 1 宮崎学園短期大学の「礼節」と宮崎学園高等学校「礼法」の比較分析。
- 2 ビジネス教育に関係する科目での関連性について分析。さらに、必要とされる資質を「検定」で計れるのか、日本における多様化社会の中での礼節に焦点をあてる。

- 3 宮崎学園短期大学及び宮崎学園高等学校と小笠原流礼法との比較分析。
- 4 「礼節（礼法）」を不易と流行ですみ分けしたときの「礼節」の重要性。日本における多様化社会の中での礼節を分析。

〔3〕考察1 宮崎学園短期大学の「礼節」と宮崎学園高等学校「礼法」の比較分析。

学校法人宮崎学園の設立者大坪資秀氏は商業教育に対する思いを、建学の精神「礼節・勤労」を校訓として、学生・生徒像の人間としての在り方生き方の指針を示している。まさに、当時の時勢にあった校訓であり、それが今の多様化社会でもしっかりと息づいている。

表1. 宮崎学園短期大学の「礼節」と宮崎学園高等学校「礼法」の内容比較

宮崎学園短期大学の「礼節」	宮崎学園高等学校「礼法」
<p>礼節の具現化（人としての品性）倉永教授の人間の研究Ⅰ（本学教育研究第13号）P35~P36（2017）</p> <p>◎建学の精神</p> <p>和室での礼節・礼法</p> <p>1. 基本的な立ち居振る舞いⅠ (1)和室での座礼(2)ふすまの開閉(3)入退室 (4)立ち方と座り方(5)歩き方(6)向きの変え方</p> <p>2. 基本的な立ち居振る舞いⅡ (1)和室での立礼(2)上座と下座の見分け方 (3)座布団の座り方と降り方(4)膝行膝退</p> <p>洋室での礼節・礼法</p> <p>3. 基本的な立ち居振る舞いⅢ (1)洋室での立礼(2)歩き方(3)上座と下座 (4)椅子のかけ方(5)人の話を聴くときの姿勢と態度(6)物の持ち方と渡し方</p> <p>4. 基本的な立ち居振る舞いⅣ (1)自己の目指す姿を考える</p>	<p>宮崎学園高等学校「礼法」参考資料3)P5~P7</p> <p>◎校訓としての建学の精神</p> <p>和室での礼節・礼法</p> <p>1. 和室でのマナー (1)礼法室について(2)上座と下座(3)入室の仕方(4)正座(5)跪座(6)歩き方(7)座り方(8)立ち方(9)膝行と膝退(10)ふすまの開閉</p> <p>2. あいさつ (1)立礼の仕方(2)座礼の仕方</p> <p>3. 訪問ともてなし (1)訪問するとき(2)客を迎えるとき(3)玄関先でのマナー(4)客室での応対、座布団の座り方・すすめ方、お茶とお菓子(5)帰る時のマナー (6)訪問のお礼</p> <p>洋室での礼節・礼法</p> <p>4. 洋室（教室）でのマナー (1)上座と下座 (2)入室の仕方(3)いすの座り方と立ち方</p>

3)宮崎学園高等学校私たちの礼法 P1

<p>言葉遣い</p> <p>5. 言葉遣い I (1)日常の言葉遣いの基本的マナー(2)敬語の種類と正しい使い方</p> <p>6. 言葉遣い II (1)TPO に応じた敬語の使い方</p> <p>7. 言葉遣い III (1)正しい言葉遣い</p> <p>8. 電話のかけ方 (1)一般的な電話のかけ方、受け方</p>	<p>言葉遣い</p> <p>5. 言葉遣い (1)言葉遣いについて (2)敬語の使い方 尊敬語、謙譲語、間違いやすい敬語表現</p>
<p>社会人・ビジネス人としての礼節・礼法</p> <p>9. 職場でのマナー (1)社会人としての基本的な心得(2)職場でのマナーと身だしなみ</p>	<p>社会人・ビジネス人としての礼節・礼法</p> <p>6. 乗り物の上座と下座 (1)自動車(2)列車や飛行機など</p> <p>7. 物の持ち方と接し方 (1)持ち方(2)接し方</p>
<p>冠婚葬祭の作法</p> <p>10. 冠婚葬祭の作法 I (1)弔事の心得 (2)神式・仏式の拝礼の仕方 (3)あいさつ言葉</p> <p>11. 冠婚葬祭の作法 II (1)金包みと表書きの心得</p> <p>12. 訪問と応対 I (1)訪問する側ともてなす側の心得と所作</p> <p>13. 訪問と対応 II (1)お茶の種類と特徴(2)煎茶の美味しい流れ方(3)茶菓のすすめ方、いただき方</p> <p>14. 手紙の書き方 I (1)手紙の形式と便箋(2)封筒の書き方</p> <p>15. 手紙の書き方 II (1)お礼状の書き方</p>	<p>冠婚葬祭の作法</p> <p>8. 儀式への出席 結婚披露宴、葬式、仏式、神式、キリスト教式、弔電・お悔やみの手紙</p> <p>9. 服装と身だしなみ 洋装、和装、正装、慶事の服装例(女性) 慶事の服装例(男性)、弔事の服装例</p> <p>10. 手紙の書き方 手紙、忌み言葉、封筒の選び方、和封筒の書き方、洋封筒の書き方、便せん、はがき、往復はがき、手紙を出す時期、郵便の知識、時候のあいさつ</p>
<p>贈答の礼法</p>	<p>贈答の礼法</p> <p>11. 贈答のマナー (1)包み方(2)贈り物の届け方(3)贈り物の丁寧な受け取り方(4)贈答の時期(5)贈り物について(6)祝儀袋について(7)不祝儀袋について</p>

<p>食事作法（テーブルマナー）礼節・礼法</p> <p>16. 食事作法 I (1)日本料理の基本的な心得と作法(2)正しい箸つかい</p> <p>17. 食事作法 II (1)西洋料理の基本的な心得と作法(2)食事作法(3)中国料理の基本的な心得</p> <p>18. 茶道 I～茶道 V 日本の伝統文化「茶道」を通して、「礼節」を教授する</p> <p>その他の礼節・礼法</p>	<p>食事作法（テーブルマナー）礼節・礼法</p> <p>13. テーブルマナー 食事の前・食事中・食後のポイント 日本料理 西洋料理 中国料理</p> <p>その他の礼節・礼法</p> <p>14. 卒業式 卒業証書の受けとり方、送辞、答辞、卒業生記念品贈呈（目録の読み上げ）、記念品贈呈（在校生）と受け取り（卒業生）</p> <p>15. 一般の紹介 16. 国際人のマナー</p> <p>17. 校内でのマナー (1)服装(2)登下校時の校門での礼(3)黙想(4)授業の始まりと終わりの礼(5)授業中(6)朝礼・集会時での礼(7)一般の表彰式の礼(8)職員室でのマナー 家庭でのマナー 団体での宿泊のマナー</p> <p>18. 面接</p>
---	--

検証

以上のように、考察した結果、宮崎学園短期大学の「礼節」（指導者1人）と宮崎学園高等学校「礼法」（指導者複数）の内容を比較した。校種の違いはあるが内容的には変わらない。

当時の校長 大坪孝雄氏は、平成15年度から宮崎学園高等学校として男女共学を機に、「私たちの礼法」を改定し、発行されたときにこう記している。

私学の特質は建学の精神に基づき、自主的で独自の教育を実践するところにあるといわれています。私立学校は「このような人間を育成して、社会に貢献したい。」という創立者の熱い志によって誕生しました。私立学校の教育によって立つところが建学の精神であり、教育の展開する基盤となるものです。（中略）礼法教育を受けることによって、社会の一員としての自覚を備えると同時に個人としての人間形成をしてきました。そして、卒業生はその礼法教育をうけたことを誇りに思っています³⁾。と、「私たちの礼法」を改定発刊したときのまえがきにその思いを記されている。

したがって、法人宮崎学園は、人間教育に建学の精神「礼節・勤労」を指導することにより社会人基礎力を育成し、有能な人材を育てている。

考察2 ビジネス教育に関係する科目での関連性について分析

ビジネス教育での「礼節」は接遇・マナーやキャリアデザインでの進路指導など、色々な場面で指導されている。初等中等教育では、進路指導中心とした内容。高等教育では社会人としての在り方生き方での指導がなされている。いずれも、大切なことは指導における「系統性」であり、特に高等教育ではその深化を図る必要がある。

現在、国も人間教育の観点からキャリアデザインを重視し、国家資格としてキャリア認定試験を設けている。有資格者が指導できるようにした。

そこで、ビジネス教育での「礼節」の関連性について記述する。例として、小笠原流礼法、ビジネス／マナー&エチケット、ビジネス能力検定、秘書学概論での項目を列記しその関連性をみてみたい。

表2. 小笠原流礼法とビジネス／マナー&エチケットの比較表

小笠原流礼法 4)	ビジネス／マナー&エチケット 5)
1. 美しい姿勢 (1)立った姿勢(2)跪座の姿勢(3)正座の姿勢 (4)イスに腰かけた姿勢と視線 2. 座る、立つ、歩く (1)立った姿勢から座る(2)座った姿勢から立つ(3)椅子のかけ方(4)歩き方(5)立ってのまわり方と歩行中の曲がり方(6)座っての進退(膝行、膝退)とまわり方 3. 心が伝わるお辞儀 (1)お辞儀の心得と「礼三息」(2)立ってのお辞儀(3)座ってのお辞儀(4)行き逢いの礼(5)前通りの礼 4. 室内出入りの作法 (1)襖や扉、立っての開閉(2)座っての襖の開閉 (3)お客様のご案内	1. 社会人の心得 (1)基本心得(2)身だしなみの基本(3)ビジネス服装(4)OLの服装(5)言葉づかい (6)職場のマナー 2. 仕事の進め方 (1)会社とは(2)仕事の基本心得(3)仕事の手順(4)命令と報告(5)電話の応対(6)来客応対の基本(7)訪問のマナー(8)席次の基本(9)会議の基礎知識(10)ビジネス文書(11)職場の人間関係(12)お酒の心得

4)小笠原流礼法入門 小笠原流三十一世宗家 小笠原清忠 (2011. 7.15) P1~P100

5)ビジネス／マナー&エチケット (初版) (1987. 11.20) 一橋出版 P9~P194

<p>5. 物の持ち方、受け渡し (1)物を扱う心得(2)目通り、肩通り、乳通りで待つ(3)物の進め方(4)物の扱いと受け渡し(5)座布団の持ち方と扱い</p> <p>6. 訪問、来客の作法 (1)訪問、来客の心得(2)挨拶、手土産、座布団のこと(3)茶菓の進め方 (4)お茶のいただき方 (5)菓子の盛り方、進め方、いただき方</p> <p>7. 和服の扱い (1)着物の心得と「袖だたみ」「本だたみ」と着せかけ方(3)袴の着つけ方 (4)羽織やコートの扱い方</p> <p>8. 暮らしの心得 (1)贈り物の由来と熨斗(のし)(2)紙の種類と包み方(3)水引とその結び方(4)箱紐の結び方(5)掛物の扱い方(6)卒業証書や賞状の受け渡し (7)神拝と玉串の挙げ方(8)仏拝と焼香</p> <p>9. 食事の心得 (1)食事作法と箸の扱い(2)慎みたい箸使い (3)和食器の扱い方(4)和食のいただき方</p>	<p>3. 知っておきたい業務知識</p> <p>4. 社会人の常識 (1)披露宴に招かれたときのマナー(2)弔事のマナー(3)包み金のマナー(4)御見舞い(5)お中元(6)お返しについて(7)テーブルマナー(8)国際人になるために</p> <p>5. ビジネス情報 (1)ビジネス用語(2)インフォメーション</p>
---	---

ビジネス／マナー&エチケットは、一部、宮崎学園高等学校「私たちの礼法」に引用されており、礼節等における内容はいずれも接遇・マナーを中心に述べてある。これらを指導する指導者の方法論にも関わってくる。複数いる場合は、よく打ち合わせをして実施する必要がある。

また、表 1. 宮崎学園短期大学の「礼節」と宮崎学園高等学校「礼法」の内容比較と表 2. 小笠原流礼法とビジネス／マナー&エチケットの比較表を対比してみると「礼節」「礼法」の内容が理解できる。

(3) ビジネス能力検定と秘書検定（必要とされる資質を「検定」で計れるか）

表 3. ビジネス能力検定と秘書検定「礼法」の内容比較表

ビジネス能力検定 6)	秘書学概論 7)
1. キャリアと豊かな仕事生活 2. 服装と身だしなみ（ビジネスマナー I） 3. 職場のコミュニケーション（ビジネスマナー II） 4. 就業中のマナー I 5. 就業中のマナー II 6. 話の聞き方と指示の受け方 7. 指示、報告と連絡・相談 8. 話し方の基本 9. 自己紹介と簡単なスピーチ 10. ことばづかい（敬語の使い方） 11. 会議への参加と協力 12. 電話応対 13. 来客応対 14. 名刺交換と面談の基本マナー 15. 訪問のマナー 16. 取引先との付き合い 17. 冠婚葬祭のマナー	1. 秘書の資質 1 2. 秘書の資質 2 3. 秘書の機能 1 4. 秘書の機能 2 5. マナーと接遇 1 6. マナーと接遇 2 7. 敬語と接遇用語 8. 組織の中の意思疎通 1 9. 組織の中の意思疎通 2 10. 秘書に必要な経営知識 11. 秘書に必要な会計知識 12. 秘書に必要な法律知識 13. 秘書に必要な情報知識 秘書技能検定 2 級審査基準より（秘書技能検定協会） 秘書技能検定 2 級集中講義審査基準 P15~P16 1. 必要とされる資質 (1) 秘書的な仕事を行うについて備えるべき要件 (2) 要求される人柄 2. 職務知識 (1) 秘書的な仕事の機能 3. 一般知識 (1) 社会常識 (2) 経営管理に関する知識 4. マナー・接遇 (1) 人間関係 (2) マナー (3) 話し方、接遇 (4) 交際の業務 5. 技能 (1) 会議 (2) 文書の作成 (3) 文書の取り扱い (4) ファイリング (5) 資料管理 (6) スケジュール管理 (7) 環境、事務用品の整備

ビジネス社会では、社会的認知度の高い資格・検定を設置しており、質の高い仕事を行うことができるようにレベルを定めている。

6) ビジネス能力検定 3 級（初版）（2010. 4.15）実教出版 P10～P94

7) 秘書学概論シラバス 2019 P83~P16

考察 3 宮崎学園短期大学及び宮崎学園高等学校と小笠原流礼法と一部比較

表 4. 宮崎学園短期大学及び宮崎学園高等学校と小笠原流礼法の比較表

宮崎学園短期大学及び宮崎学園高等学校	小笠原流礼法
和室での礼節	美しい姿勢 座る・立つ・歩く
洋室での礼法	心が伝わるお辞儀
言葉遣い	室内出入りの作法
社会人・ビジネス人としての礼節	物の持ち方、受け渡し方
冠婚葬祭の作法	訪問・来客の作法
贈答の礼法	和服の取り扱い
食事所作（テーブルマナー）礼節	暮らしの心得
その他の礼節	食事の心得

検証

宮崎学園短期大学及び宮崎学園高等学校での「礼節」は初代大坪理事長の建学の精神「礼節・勤労」を具現化したものであり、必修として位置付け、生徒・学生全員に今後の人間としての在り方生き方を示したものである。

一方、小笠原流礼法は、長年、日本の鎌倉時代から江戸時代の武士の礼法である弓術や弓馬術として結びついたもので、日本伝統の全てを意味する観点からいえば礼法はその一部にしかすぎないと小笠原流礼法入門で小笠原流三十一世宗家小笠原清忠氏は述べている。現在も北九州市小倉城の奥書院で脈々と市民の皆さんに伝授されている。

ここで、「立礼」の方法について比較してみたい。

(1) 小笠原流礼法とビジネス社会での礼法（立礼）

従来の小笠原流礼法と現在のビジネス社会での礼法（立礼）には相違がある。現在のビジネス社会は多忙で合理的な、そして相手に印象を与える方法が用いられている。

(2) 調査 1 小笠原流立礼とビジネス社会の立礼

小笠原流礼法 立礼

立礼は、常に正しい状態を持して屈体する。深いお辞儀は指先が膝頭に達する位置で、普通礼はそれより高くなる。お辞儀は、吸う息で屈し、吐く息だけ止まり、吸う息で体を起こす。ことに体を起こすとき相手との結びが切れないよう静かに起きる。屈体の位置から体が次第に起き、相手が視線に入ってきてからの結びが特に大切。このように相手との結びを考え誠意を持ったお辞儀は、正しい姿勢に結びつく。

立礼の方法

- 1 胴体を正しくすえ、首のおちないように上体を屈してゆく。
- 2 普通礼
- 3 深い礼、指先が膝に接するまで屈体する⁸⁾。

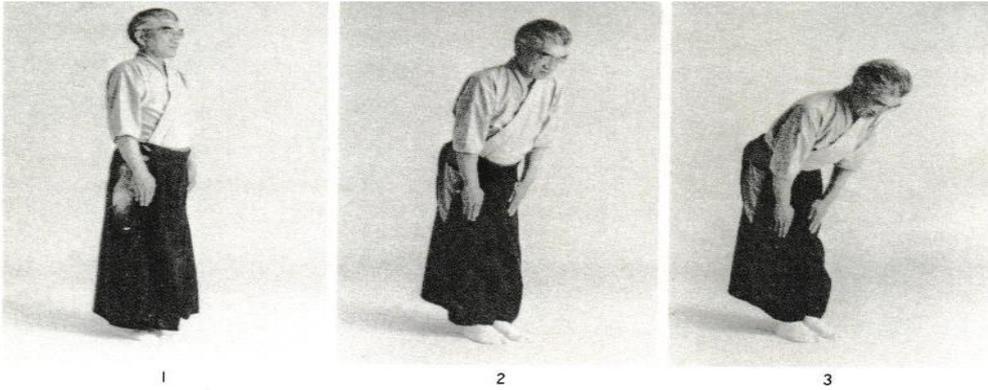


図 1. 小笠原流立礼の仕方 9)

ビジネス社会 立礼

① 立ち姿は背筋を伸ばすのが基本。

- ・ かかとをつけ、つま先を少しひらく。手は自然に重ねる。
- ・ お腹を引っ込め、やや肩を張る感じにし、肩を丸めたりしない。

② お辞儀の仕方と使い分けを心得る。

- ・ お辞儀には、「会釈」、「普通礼（敬礼）」、「最敬礼」の 3 種類がある。
- ・ 「会釈」は角度 15° 程度のお辞儀で、廊下で人に出会ったときや部屋に出入りするとき、人に話しかけるとき、次の動作に移るとき等に用いる。
- ・ 「普通礼（敬礼）」は、角度 30° 程度のお辞儀で、人を迎えるとき、見送るとき、あいさつをするときなど、ビジネスの場ではよく用いられるお辞儀。
- ・ 「最敬礼」は、角度 $45^{\circ}\sim 60^{\circ}$ のお辞儀で、人にお願ひするとき、感謝するとき、お詫びするときなどに用いられる。
- ・ 人に接するときは「前傾姿勢」で行う 10)。

上記のように立礼は 3 つの所作を述べているが、ビジネス社会での立礼はただ、相手に対して尊敬と敬意を払うための所作であり心が相手に享受されればよいとされている。

・ 8) 9) 弓道 ②立礼さし絵及び説明 P44 小笠原清信(2037.11. 20)講談社

・ 10) 秘書検定準 1 級 P305 説明

図 2. ビジネス立礼の仕方¹¹⁾

検証

考察した結果、ここで注目するのは、礼を行うときの所作の手の置き方が足の太もものどこにくるのかである。その位置に注目してほしい。小笠原流礼法は、「指先が膝頭に達する位置」である。図 1. 3つの礼を参照。一方ビジネス礼法では、「手の位置は太ももの上で手を合わせる」図 2. 3つの礼を参照。

日本は武道が発達した国のひとつである。この武道（剣道・柔道・弓道・空手道・居合道等）での立礼の方法は、もちろん、小笠原流礼法での礼法である。これが伝統として受け継がれてきたものである。筆者も弓道の有段者であるがまさに「静」から「動」へ流れていく所作である。手、足、頭部等の運びや身体の置き方など、様々な決まりがある。これらをひとつに行うことにより技と礼が一体化するということである。これらを通して「心・技・体」を極め、人としての在り方生き方を育成する。これらの一つ一つの所作が連続し、それを一体化させることにより美の美しさを述べている。ビジネスの立礼では、仕事を通じた人間関係に関する礼法であり、礼法＝信頼＝心の育成である。合理的な育成として重宝されている。

考察 4 「礼節（礼法）」を不易と流行ですみ分けしたときの「礼節」は必要性和比重の置き方。日本における多様化社会の中での礼節を分析。

不易と流行について、終生変わらぬものとその時の時勢によって変化するものがある。

調査 2. 表 5. 日本の建物の構造

日本式の家屋は、木造で一つの部屋が広く、二間続きの部屋があり、畳が敷いてある古来の家が多く存在した。また、現代の家屋の多くは鉄筋モルタル塗りの家屋が建設されている。そこには、従来からの畳の部屋があまり見受けられなくなった。存在しても一部屋で、本式の畳ではない、挟間の畳である。また、ふすま、障子などもあまりない。現代風の小窓のガラスがはめ込んであり、ブラインドが垂れ下がっている家屋が多い。

・ 11)秘書検定準 1 級 P305 さし絵

そこで、住宅メーカーのモデル住宅における和室と洋室の割合を調査してみた。その結果が下記の通りである。

表 5. 日本の建物の和室と洋室における割合と畳部屋の比較表

・住宅メーカー広告ちらしより(2019)(住宅会社名については省略)

住宅会社名	種類	タイプ	和室	洋室	部屋数合計
A	一戸建て	3LDK	1 (1階)	2	3
B	一戸建て	2階建て	1 (2階)	3	4
C	一戸建て	2階建て	1 (1階)	4	5
D	一戸建て	2階建て	1 (2階)	2	3
		2階建て	0	2	2
E	マンション(集合住宅)	2LDK	0	2	2
		3LDK	0	3	3
		4LDK	0	4	4
F	マンション(集合住宅)	Aタイプ	0	3	3
		Bタイプ	0	3	3
		Cタイプ	0	3	3
G	マンション(集合住宅)	1R	0	1	1
		1LDK	0	1	1
7社の和室・洋室合計数			4	39	10%和室/洋室

検証

以上のように、各住宅メーカーの住宅建築の部屋の形態を調査した結果、和室が10%、洋室が90%になることが裏付けられた。

そこで、本学の礼節の1. 基本的な立ち居振る舞いをみてみると、(1)和室での座礼、(2)ふすまの開閉、(3)入退室、(4)立ち方と座り方、(5)歩き方、(6)向きの変え方を指導している。

基本的な立ち居振る舞いⅡでも日本家屋でしかも和室が想定されている(1)和室で立礼、(2)上座と下座の見分け方、(3)座布団の座り方と降り方、(4)膝行膝退(座っての進退とまわり方)についての項目があるが、基本的な立ち居振る舞い1と同様に上記の和室と洋室の割合をみると生かす場面がないのではないだろうか。さらに、設置されていても和室の畳間は、狭間の4畳半である。

ここで一考しなければならないのが、不易の部分と流行の部分である。従前の日本の伝統文化作りの家は、当然、畳が敷いてあり、ふすま、障子があり、これらの部屋で結婚式や披露宴が行われていた。現在、礼節で指導している内容は当然当てはまる。古き良き時

代の内容であるが、これを現代の家屋に当てはめると、原則として畳がない、ふすまがない、障子がないなど和室（全体の10%）での基本的居振る舞いはなかなか生かす場面がないのではなかろうか。和室の部屋設置は、狭間の4畳半での使用は何なのか疑問に感じる。

一方、洋室割合90%は、多様化社会の中で、住宅のニーズも変化してきているのではないか。従来設置されている和室を洋室に改装している状況がある。生活様式も洋室を中心とした生活スタイルに変化している。

不易の部分と流行の部分、特に不易を考えると一概に和室の指導は不要だとは言えない。洋室が増えている現状で、指導の割合を和室指導か洋室指導かを検討してみることも大切である。

調査3 「礼節」について

以下は、「礼節」の調査アンケート質問紙現代ビジネス科1年28人(2020.1.17)に行った結果である。

「礼節」について

下記の質問に答えてください。

質問1.

「礼節」の授業を1年間、学びましたが意味について答えて下さい。

(1人) ①躰の授業である。 (4人) ②こころを育てる授業である。

(23人) ③接遇・マナーの授業である。 (0人) ④その他

・礼節の意味は、人間育成であるが4人がそうだと答え、しつけや接遇・マナーの授業が圧倒的に多く23人となっている。

質問2.

「礼節」の授業を1年間、学びましたが何が一番役に立ちましたか。

(7人) ①挨拶の仕方 (14人) ②和室での礼法(座礼やふすまの開閉等)

(5人) ③洋室での礼法 (2人) ④その他(なし)

・和室の礼法14人が役立ったと答え、全体の50%である。役立ったと答えた学生の家に和室が設置してある家では肯定的である。

質問3. あなたの家についてお伺いします。

1. 家の形態() ①一戸建て () ②マンション・アパート

2. 1. について、お伺いします。この部屋には、和室(室) 洋室(室)

・答えてもらったが、プライバシーの関係でデータとしては示さない。ただし、和室約30%、洋室約70%であった。

質問4. 礼節で、和室で、畳の間の開け閉めや正座などを学びました。1年間を通じて体験しましたか。

(2人) ①大変役立っている。 (13人) ②まあまあ役立っている。

(11人) ③あまり役立っていない。 (1人) ④役立っていない。

・授業の和室の所作は理解できたが、役立っていると答えているのは55%である。

質問 5. 礼節で、洋間でのマナーを学びました。洋室での礼節が役立ちましたか。

(4 人) ①大変役立っている。 (21 人) ②まあまあ役立っている。

(2 人) ③あまり役立っていない。 (1 人) ④役立っていない。

・洋室については、89%の学生が役立っていると答えている。

質問 6. 挨拶をするときに、手はどこに置いていますか。

(0 人) ① 礼をしたときに太ももの所に置いて、手は交差させない。

・礼法での指導は① にあてはまります。

(25 人) ② 礼をしたときに太ももの所に置かず、手は交差させる。

・ビジネスの世界では、②にあてはまります。

・小笠原流立礼とビジネス立礼を比較してみると、手を交差させる、手を重ねると答えた学生が全員、現在のビジネス立礼を行っている実態が伺える。

質問 7. 宮崎学園高等学校卒業生に伺います。高校 3 年、短大で 1 年合計 4 年間礼節を学びました。役立ちましたか。

(5 人) ①大変役立っている。 (5 人) ②まあまあ役立っている。

(0 人) ③あまり役立っていない。 (0 人) ④役立っていない。

・継続は力なりという言葉があるが、まさに継続することは意識をしなくて自分の資質となっているのではないだろうかと感じる。ここに、この学校でよかったという成就感が生まれる。

検証

このように、何百年と息づいてきた小笠原流立礼（不易）を授業では取り入れているが、ビジネス社会立礼（流行）について学生達は後者を実践している姿が実証された。

そこには、建物の形態であったり、教育指導及びビジネス社会での指導により、このような実態になったと考えられる。教育指導の面からは、当然小笠原流立礼（不易）とビジネス社会立礼（流行）は両方指導することが、実社会において柔軟的に対処できる学生の育成につながると言える。本学の「礼節」を、今後とも継続し、宮崎県人の心の豊かさに繋がることに期待する。

〔4〕まとめと課題（古き良き時代から激動する時代への脱皮）

以上のように、ビジネス教育における「礼節」について、特に、本学の「礼節」と「小笠原流礼法」について考察・検証し、特に「不易」と「流行」について述べた。

本学の「礼節」を、マーケティングに置き換えて考えれば、マーケティング志向でビジネスをはじめするためには、「まずは商品ありき」の思考方法から脱皮し、「消費者ニーズ」に転換することができるかどうか、大きな分かれ目である。

「商品ありき」とは、商品を作れば売れるという考えである。戦後すぐの時代は物が足りなかったため、商品の提供そのものが消費者ニーズに合致していたといえる。一方、「消費者ニーズ」とは、少し先取りし、消費者ニーズをとらえて商品を提供しないと、商品は売れ

ていかないという考え方である¹²⁾。

しかし、前述の「商品ありき」から「消費者ニーズ」へと本当の意味で思考方法を変えるのは難しい。というのも「商品」を得るビジネスを行い、現在も会社が存続しているのに、なぜ「商品ありき」から「消費者ニーズ」へと変更しなくてはならないのかが理解できないのである。

例えば、新入社員が入社し先輩から教育を受けるが、その先輩の思考方法はその前の先輩から受け継いできたものである。だから、それが間違っているとは新入社員には思えないのである。戦後しばらくは役に立った正しい思考方法として継承されてきたので、今さら役に立たないと言われても、体の隅々まで行きわたっているので変えられないといった事実が存在する。

この「作れば売れる」思考方法は、もはや現在の成熟した消費社会にはマッチしない。今の社会では「はじめに商品ありき」から脱皮し、「はじめに消費者ニーズありき」に変化すれば、おのずと「売れる商品」が開発される確立が高くなるということである。

・自由記述

昔々、大正時代に佐賀から大阪に会社の主体を移した経営者がいた。江崎グリコの社主・江崎利一氏である。江崎氏の言葉に「消費者の腹の中で考えよ」という言葉がある。さすがに大ヒット商品を世に送り出した人物であるから、商品を購入してくれるのは「消費者」であることを痛いほど知っていた。

マーケティング志向でビジネスを始めるためには、「まずは商品ありき」の思考方法から脱皮し、「消費者ニーズ」に転換することができるかどうか、大きな分かれ目である。

礼節にしても、「古きものを学び、今を学ぶ」その古きものは「商品ありき」と同じではないだろうか。商品を作れば売れるという考えである。つまり、従来継続してきたものをそのまま実践する。それが、多様化した社会にマッチするのか、検証するために日本の建物の建造物の畳や立礼も何百年継承されたものから現代のビジネス社会での立礼を比較することによりその違いを示した。「不易と流行」という観点で記述したがマーケティングで言う「商品ありき」から「消費者ニーズ」へ思考を変えていくことは、当然本学の「礼節」においても指導の在り方、指導内容等を工夫・改善していくことが大切ではなかろうか。つまり、現在のニーズをとらえて学生に提供しないと進歩がない。本当の意味で思考方法を変えるのは難しい。というのも創業者の思いやそれに従事する教職員の考え方もあるだろうと思うが、本学が今後とも存続・発展していくためには、全員の知恵と努力が必要ではなかろうか。今回は「礼節・礼法」を「不易と流行」について考察したが、言えることは世の中が多様化しているということである。小笠原流とビジネス世界での礼はいずれも大切である。しかし多様化社会では工夫・改善も大切である。そうすることにより、学生

12) マーケター 橋口善次（宮崎日日新聞社）

達が社会の中で実践し、すばらしい礼（行動）を誉められた時に「この学校でよかった」「この学校で学んでよかった」という発想になるのではなかろうか。ぜひ、「礼節」は変化しないのではなく思考方法を変えて、変化するのだという知恵を出して欲しい。

引用・参考文献

- ・小笠原流礼法入門 小笠原流三十一世宗家 小笠原清忠ハースト婦人画報社(2011. 7.15)
- ・弓道 小笠原清信 講談社(1974.11.20)
- ・礼節の具現化（人としての品性） 倉永愛子教授の人間の研究 I（本学教育研究第 13号)(2017)
- ・宮崎学園高等学校 私たちの礼法 宮崎学園高等学校発行
- ・ビジネス／マナー&エチケット（初版）一橋出版（1987. 11.20）
- ・ビジネス検定 3 級 （初版）実教出版（2010. 4.15）
- ・秘書検定 2 級集中講義 早稲田教育出版(2014.2.10)
- ・秘書学概論シラバス 宮崎学園短期大学 久保良一（秘書検定 2 級）(2019.4. 1)
- ・秘書技能検定 2 級審査基準 早稲田教育出版(2014.2.10)